



岡山市が日中韓交流深化のスタート地点に！ 第18回日中韓3か国地方政府交流会議

(一財)自治体国際化協会交流支援部交流親善課 山本 さやか (岡山市派遣)

2016年10月18日(火)から21日(金)にわたり、「第18回日中韓3か国地方政府交流会議」が当協会と岡山市との共催で開催されました。本会議は、歴史的、地理的にも密接な関係にある日本、中国、韓国の3か国地方政府交流間の国際交流・協力を一層促進することを目的に、3か国における地方政府の国際交流機関(日本・自治体国際化協会、中国・中国人民対外友好協会、韓国・大韓民国市道知事協議会)が、1999年より輪番制にて毎年開催しているものです。今回の開催地となる岡山市は、中国・韓国と関係も深く、日本開催では初となる政令指定都市での催しとなりました。

会議概要

今回の会議は、日本からは46団体242人、中国からは44団体154人、韓国からは16団体66人という

日本開催では最多の地方政府関係者の参加を得て、大盛況となりました。

開催地となった岡山市は、人口約72万人の地方都市であり、2009年に政令指定都市となりました。近年、ユネスコが提唱するESD(持続可能な開発のための教育)の考え方に基づく公民館や、ユネスコスクールを中心とした活動が国際的に評価されつつあります。また、文化に着目したまちづくりや近隣都市との連携に基づく観光振興にも取り組んでいます。

10月19日の本会議では、共通の目的を持つ地方政府が、積極的に交流を行うことにより北東アジア地方を活性化させることを目指し、「地方政府交流による北東アジア地方の活性化」をメインテーマに、3か国の代表による講演およびパネルディスカッションを行いました。

基調講演

両備グループの小嶋代表兼CEOは、現在、3か国の地方政府が抱える財政難などの共通の課題を解決していくには、「忠恕」や「知行合一」といった儒教の思想が大



両備グループ 小嶋代表による基調講演の様子

事であり、今後の交流を深化させるために、儒教精神が栄えた地域であるという共通点に目を向け、交流や観光を促進していくことが重要だと提唱しました。

主旨講演

主旨講演では、各国の代表者が各地方政府の取り組みを発表しました。

まず、大森市長は、「交流」が人・経済・文化の「動き」をもたらし、交流が深化することで、ひいては世界平和に寄与できるとし、3か国の各地方政府がそれぞれの特色を活かしながら、共通の目的に向けて積極的に交流す

本会議の主なプログラム	
基調講演	「日本における地方の課題、地方の経営」 講演者：両備グループ代表兼CEO 小嶋光信
主旨講演	「地方政府交流による北東アジア地方の活性化」 【日本】岡山市長 大森雅夫 【韓国】京畿道高陽市長 崔星 【中国】河北省人民対外友好協会執行副会長 葉長青
パネルディスカッション1	「持続可能な社会づくりに向けた地域での学びと実践」 【コーディネーター】山梨県立大学教授 吉田均 【日本】山口県環境生活部長 秋貞憲治 【韓国】ソウル特別市城北區庁長 金永培 【中国】浙江省湖州市政治協商会議副主席 曹会明
パネルディスカッション2	「文化・芸術からはじまる街づくり」 【コーディネーター】山梨県立大学教授 吉田均 【韓国】慶尚北道聞慶市副市長 金在光 【中国】吉林省人民対外友好協会専任副会長 呼応 【日本】高松市長 大西秀人
パネルディスカッション3	「地方政府間連携による観光振興」 【コーディネーター】山梨県立大学教授 吉田均 【中国】雲南省人民対外友好協会会長 周紅 【日本】熊本県観光経済交流局長 中川誠 【韓国】大田広域市大徳区庁長 朴壽範
交流広場	

ることが大切だと
まとめました。

次に、崔市長は、
3か国が共生して
いくための教育を
継続的に行うこと

を提案し、未来志 岡山市 大森市長による主旨講演の様子
向で発展していくことを参加者に呼びかけました。

最後に、葉執行副会長は、過去の会議が3か国の建設的で包括的な発展に寄与してきたとし、今後は、新たな協力関係を切り開き、地方経済振興を促進したい意向を示しました。



パネルディスカッション

午後からは、岡山市の取り組みをサブテーマとし、コーディネーターに山梨県立大学吉田均教授を迎え、パネルディスカッションを行いました。

パネルディスカッション 1

秋貞環境生活部長は、世界の空や海はつながっている
ので、よりよい環境を次世代に引き継いでいくことが、
私たちの使命であると発表しました。

次に、金区庁長は持続可能な社会をつくるということ
は、人々が共生し幸せになることであり、地域の民主主義
の構築と都市間での協力が重要だとまとめました。

続く、曹副主席は、グリーンツーリズムについて浙江
省湖州市での事例を紹介しました。

最後に、吉田教授が、環境改善への取り組みが新ビジ
ネスを生み出し、人を幸せにしていると3つの事例の
共通項を示し、日中韓3か国で環境分野について①情
報交換を行うこと、②相互理解を深めること、③相互協
力を行うことが重要であると結論づけました。

パネルディスカッション 2

まず、金副市長が地域特有の文化的価値を世界に発信
し高めていくことが今後の展望であるとし、地域の文化
を生かした地域の活性化を進めたいと発言しました。

次に 呼専任副会長が、地方の特徴と時代の息吹に富
んだ都市文化は都市の品格・魅力であると言及しまし
た。そして、各都市の経験と方法を相互に意見交換し、
互いに発展していくことを参加者に呼びかけました。

大西市長は、文化芸術の振興を通じて経済産業の発展
を成功させた事例として注目を集めている瀬戸内国際芸

術祭について紹介しました。

最後に、吉田教授から、「文化は国に単独で存在する
のではなく融合しながら個別化し、さらに進化していく
ものである。3か国が文化を共有してきた時代を忘れず
に、協力していくことが今の時代には重要だ」との指摘
がありました。

パネルディスカッション 3

周会長より、3か国が豊かな観光資源を生かし、相互
補完性を高めるために、①自治体の指導力の発揮、②国
際会議の有効活用、③人的交流の推進を通して、観光交
流を深めることが提案されました。

また、中川観光経済交流局長から、2016年4月の
地震からの復興のために、行政や民間有識者が話し合い、
熊本観光の目玉を再発見していこうという創造的復興の
取り組み、および九州7県で行っている広域観光周遊
ルートについて紹介がありました。

次ぐ朴区庁長は、前年の第17回会議で開催地であ
った義烏市と交流が始まり、文化観光とビジネス観光を同
時に実現させる新しい観光モデルを共同で作成している
事例を紹介しました。

そして、吉田教授とディスカッションを深めていく中
で、大徳区と義烏市のように、今回の会議を会議のみに
留めるのではなく、交流を通じて意見交換や経験を共有
し新たな事例を生み出していくことの重要性が3か国
のパネリストによって再認識されました。

3つのパネルディスカッションの最後に、吉田教授か
ら、今回提案された事例が新たな外交体制の提案に寄与
するのではないかと指摘がありました。そして、岡山市
での会議が3か国の交流を深化させるスタート地点
になることを願うと締めくくりました。

交流広場

本会議終了後、交流広場を設置し、過去最多の23団
体が参加しました。交流広場とは、他国地方政府との交
流を希望する団体同士をマッチングし、団体間の交流を
図る場です。岡山市内から集まった通訳ボランティアの
方々のサポートのおかげで、各国の担当者が名刺交換に
留まらず、積極的な意見交換を行うことができ、大いに
盛り上がりました。



日本（写真左）と中国（写真右）の参加自治体の交流の様子。紫色のTシャツを着た通訳ボランティアさん（写真手前）が交流のサポートをしてくれました。

視察

2日間の会議終了後には、希望参加者を募り岡山県・香川県内の視察ツアーを実施しました。岡山城および会議中に開催されていた「岡山芸術交流 2016」を視察した後、倉敷市の美観地区や香川県の「瀬戸内国際芸術祭 2016」や中野うどん学校などを訪れました。

参加者からは、岡山城から見える美しい岡山市の町並みや、倉敷市美観地区の伝統の保存状況の良さが印象的であり、また中野うどん学校では実際にうどん打ち体験ができて大変有意義だったという言葉いただきました。

まとめ

グローバル化とローカル化が同時に進む現代社会において、国家レベルでは対応できない問題が増えてきています。そのため、歴史的・地理的に密接な関係のある3か国の地方政府による多様な分野での協力の必要性は一層増しており、3か国の地域間交流も相互理解や友好を基盤とし、相互発展を共に目指す体制となるよう、その関係性も深化させていかなければなりません。

今回、さまざまな発表を通じ、各地方政府が抱える課題や地方政府が目指すまちづくりのあり方や手法について共に学び、理念に留まらない実践的な情報の共有を行うことができました。「会議の参加者同士」という関係性を越えて「共通の問題に取り組むパートナー」として関係性を高めていくことが、今後より一層求められることとなります。

開催地より ～「地方レベルの交流の力」～

隣国の中国・韓国から約220人の参加を得て開催した「日中韓3か国地方政府交流会議」では、参加者の皆様に岡山らしさ、日本らしさを感じていただけるよう心を配り、おもてなしの心でお迎えいたしました。

とりわけ、岡山が誇る日本三名園の一つに数えられる岡山後楽園と岡山城をライトアップした幻想的な雰囲気の中で行った開会式と歓迎レセプションには驚きの声が上がリ、多くの参加者が、城と庭園を一度に望める景色に目を奪われ、和の趣に感嘆した様子でした。

そして、参加者の方から直接、「今日参加した者は、おそらく一生岡山のことを忘れないだろう。」という言葉を掛けていただいたことは、主催市として、本当に嬉しい出来事でした。

会議を通じて、国の違う参加者同士が熱心に耳を傾け、ときに議論を交わす姿は非常に印象的で、今回のような地方レベルの交流を継続していくことが、国境を越えた人の輪を生み、そこから文化の輪、経済の輪へとつながり、ひいては北東アジアの平和と安定に寄与することができるかと確信した次第です。

会議の開催にあたりご尽力いただいた自治体国際化協会をはじめ、講師やボランティア、そして、全ての関係者の皆様方には、この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。開会式での鏡割りの様子。



岡山市長 大森 雅夫

次期開催のお知らせ

2017年の会議は、韓国・蔚山広域市において開催されます。今後の情報は、随時当協会のホームページ等を通じてご案内します。日中韓3か国の地域間交流と協力を深める絶好の機会ですので、ぜひご参加ください。